

プログラム近況報告

2014年度(2013年10月1日～2014年9月30日)

World Vision

この子を救う。未来を救う。

タンザニア連合共和国

ゴロワ地域開発プログラム(TZA-183548)



支援によって制服や通学かばんが揃い、元気に学校に通えるようになったメアリーちゃん(13歳)



父親と一緒にADPから提供された乳牛の世話をするメアリーちゃん

チャイルドストーリー

収穫量が増え、 乳牛の支援も受けて生活が改善しました

ゴロワ地域開発プログラム(以下、ADP)の支援地域で暮らすメアリーちゃんの両親は、伝統的な農法でトウモロコシを栽培していましたが、収穫量は少なく、メアリーちゃんを含む6人の子どもたちを十分に食べさせることができず、成績は良くありませんでした。体の具合が悪いことも多かったです。制服や通学かばんが買えず、学校も休みがちでした」とメアリーちゃんは当時を振り返ります。

しかし、両親がADPから改良種の乳牛の提供を受け、近代的な農法の研修を受けてから、生活は改善し始めました。乳牛から搾れる毎日18リットルの牛乳は、メアリー

ちゃんや兄弟の栄養状態の改善に役立っただけでなく、余った分を売ることにより現金収入をもたらしました。また、以前は1エーカーあたり4袋のトウモロコシしか収穫できませんでしたが、近代的な農法で栽培した結果、今では15袋も収穫できるようになりました。メアリーちゃんたちはお腹いっぱい食べられるようになり、余ったトウモロコシを売ったお金で学用品を買うこともできるようになりました。「支援により絶望的な生活から抜け出すことができ、本当に感謝しています。将来は畑をもっと拡大したいと思っています。」メアリーちゃんの父親は笑顔で話してくれました。

生計向上プロジェクト

農業生産性の向上と家畜飼育の普及に力を入れています

ADPでは支援開始時から農業生産性の向上に力を入れてきました。個人単位で限られた農地を耕してきた農民のうち、希望者を生産者グループとして組織し、生産性の高い農業技術、マーケティング、財務管理などに関する研修を行いました。また、野菜の種（たまねぎ、トマト、キャベツなど）や手押し車も支給しました。これらの支援が実を結び、一年を通じて十

分な食料を得ることができる世帯は、地域内でのサンプル調査によると、24.0%（2008年）から78.7%（2014年）まで大幅に向上しました。また、特に貧しい家庭（親を亡くした子どもたちを抱える家庭やHIV/エイズとともに生きる人々）に対しては、合計で乳牛26頭と鶏500匹を支援。牛乳や卵の販売による収入向上や栄養改善といった成果が出ています。

\$ 十分な食料を得られる世帯
24.0%（2008年） → 78.7%（2014年）



ピーマンを栽培する生産者グループのメンバー。畑には点滴灌がいシステムも導入されています



トマトを栽培する生産者グループのメンバー。研修で学んだ栽培方法を実践しています

教育プロジェクト

教室の建設や教師への研修を通して、教育の改善に取り組んでいます

2014年度、ADPは支援地域内に2つの教室と職員室を備えた新たな小学校を建設しました。これにより、今まで隣村の小学校に行かなければならなかった児童が、自分の村で学校に行くことができるようになりました。また教師に対しては、学校運営や授業の質向上（生徒の参加を促す教授法や時間割、授業内容の見直し）に関する研修を行いました。児童の学力向上のために、地域内の小学校では2年に1度、

学力テストが開催され、優秀な生徒や学校を表彰するという取り組みも始まりました。これまでのADPの支援活動と行政や地域住民の努力の結果、小学校入学率は65.9%（2009年）から82.0%（2013年）へ、児童の出席率も72%（2013年）から93%（2014年）へと大幅に向上しています。



新たに建設された小学校



研修に参加する教師たち



小学生の出席率が向上 **72%**（2013年） → **93%**（2014年）



支援地域の女性のインタビュー

近代的農法と乳牛の支援により収入が増えました

Q. 家族構成を教えてください。

夫と7人の子どもたちと暮らしています。

Q. ADPのどのような活動に参加しましたか。

活動に参加してどのような変化がありましたか。

近代的農法についての研修に参加し、学んだ農法を実践したところ、収穫が増えました。作物を売ったお金で砂糖や米などを買うことができるようになっただけでなく、売店を借りて小さな食料品店を始めることができました。家畜飼育の訓練と乳牛の支援も受けました。収入が増え、乳牛の飼育も始めたことで、子どもたちに以前よりバランスのとれた食事や牛乳を与えることができるようになりました。

Q. 将来の夢を教えてください。

以前は店を持つのが夢でしたが、この夢は叶いました。将来は民宿を始めたいです。



近代的農法を実践しているテレジアさん（40歳）



ADP スタッフ・インタビュー

Q.どのような仕事をしていますか。

支援地域に住むチャイルドを定期的に訪問し、健康状態や学校に通っているかを確認しています。チャイルドの成長報告を作成してチャイルド・スポンサーに届けたり、手紙の橋渡しもします。また、チャイルドや家族がADPの活動に参加するよう促すのも仕事の一部です。

Q.2014年にいちばん困難だったことは何ですか。それをどのように解決しましたか。

ゴロワ地域は土地の起伏が激しく、山の上にある村には車やバイクで行くことができないため、長距離を歩く必要があります。また、チャイルドや地域の人々は、服や靴など直接的な物の支援を求める傾向があるため、地域のリーダーにワールド・ビジョンの地域開発の方法を

何度も説明し、自助努力を引き出すよう努めています。

Q.ADPで働く原動力となっているものは何ですか。

子どもたちや地域の人々とともに働くことが私の喜びであり、原動力です。



ゴロワADPのスタッフ。いちばん右がインタビューに答えたキンヨリ・ンガレソニ(36歳)

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト



支援により子どもたちが健やかに成長できる地域へと変わりつつあります

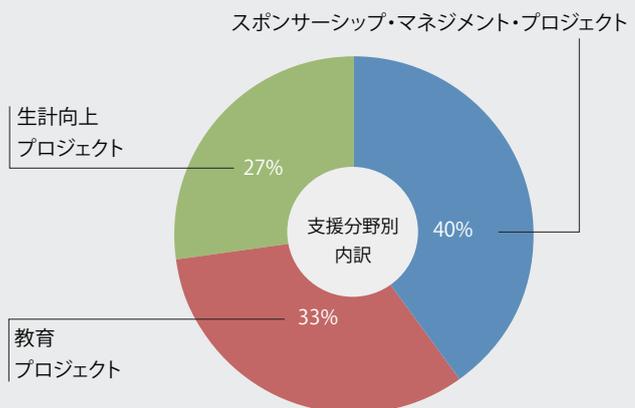
チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、地域の人々の生活をどのように改善しているか確認を行うほか、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。このほか、地域内の村々の指導者に対して出生証明書の重要性を説明しました（この証明書がないと教育や医療といった公的サービスを十分に受けることができません）。彼らはそれぞれの村に帰って、親たちを啓発し、487人の子どもたちが出生証明書を得ることができました。

会計報告

TZA-183548

収支計算書 自 2013年 10月1日 至 2014年 9月30日

プログラム支援額	47,632,779
チャイルド・スポンサーシップ	47,632,779
当期支援額	26,472
前期繰越金	47,659,251
プログラム支援額合計	
プログラム支出額	19,297,999
スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	15,828,963
教育プロジェクト	13,217,194
生計向上プロジェクト	
プログラム支出額合計	48,344,156
次期繰越額	-684,905



2014年度より、農業プロジェクトの名称が生計向上プロジェクトへと変更となりました。また、2014年度の生計向上プロジェクトの支出額には、2013年度にて終了となったHIV/エイズ対策プロジェクトの精算額(80,083円)、保健衛生プロジェクトの精算額(102,587円)を含みます。

お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン
電話：03-5334-5351 (平日 9:30 ~ 17:00)
FAX：03-5334-5359

ワールド・ビジョン

検索

ホームページ：www.worldvision.jp
e-mail：dservice@worldvision.or.jp